令和３年度
白根北児童館年次報告書

特定非営利活動法人　ワーカーズコープ

Ⅰ　令和３年度の運営総括及び来期の課題

１．総括

今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。９月には新潟県独自の特別警報により休館（９月３日～16 日）。また、新種株(オミクロン)により感染が広がり、１月にはまん延防止等重点処置適応に伴い休館（１月 21 日～３月６日）。南区でもいつ誰が感染してもおかしくない環境になりました。近隣の学校等での感染者が出た情報が流出すると、来館者が激減しました。引き続き感染対策を実施しながら運営しました。

①来館時の決まり

来館時にはマスクの着用を徹底しました。小学生以上はマスク着用を義務化し、乳幼児は 保護者の判断に任せました。最近では新しい生活様式のもと、どこに行くにもマスクの着用は習慣慣づいているように感じられます。ただ、小学生でもマスクをせずに公園で遊んでいてそのままマスクを持っていなかった等、事情によりマスクを忘れた子どもには白根北児童館で用意したマスクを提供しました。

②受付方法の変更

来館したらまず予防効果が高い「石鹸での手洗い」を徹底しました。今までは受付で来館者本人が個人カードを自分で探し入館及び退館ケースに入れ、職員が来館者の把握をしていました。しかし、カードに触れる事でのウイルス感染を回避する事と、日ごとの来館者の情報把握を目的として南区役所健康福祉課から頂いた入館者表のデータをもとに来館者氏名、住所、電話番号、園学校名、来退館時間、体温を記入してもらうよう変更しました。小学生は住所、電話番号を記入するのが難しいので学校名を記入してもらいました。変更したことで大通小学校の児童は自分の学校名「おおどおり」の字を学び、書き順を覚えることができ、中高生は自分の住所、保護者の電話番号を覚えることができとても良かったと思います。乳幼児は初来館かどうかの把握が出来なかったり、保護者が「毎回記入する事が面倒で何枚かまとめて貰って家で書いてきても良いですか？」と問い合わせを頂くようになり、登録済みもしくは初来館の〇つけ欄を設け、登録済みの来館者は住所、電話番号を省略できるように簡易的に改良しました。また非接触型の体温計を用意し来館者全員の検温をし、37.5 度以上の発熱があった場合と解熱から 24 時間経過していない場合、家族に風邪症状のある方は来館を控えて頂きました。また、今年度９月には新潟市作成の「施設を利用するみなさんへ」来館時チェックシートを利用し・県外を往来していないか・PCR 検査をしていないか・家族で PCR 検査をする予定がないか等確認しました。その後もチェックシートは随時利用できるように修正し利用しています。

③館内の環境整備の変更

３密を回避するため各部屋常時３か所以上の窓、ドアを開け換気しました。机に隣り合わせや向かい合わせに座らないように、座る場所を示す貼紙やマットを置きました。各部屋に「遊んだものいれ」の籠を設置し、遊んだおもちゃは籠に入れてもらいました。籠に入れられたおもちゃは職員が随時回収し、消毒してから元の場所へ戻しました。乳幼児の部屋は遊戯室への移動時等に利用者が居なくなった時に一時閉鎖し、設置されている遊具全てを消毒し換気しました。遊戯室では交代の時間毎に遊具の消毒、換気時間を５分設けました。冷水器も共有を避けコップを持参するか紙コップを提供して水分補給をしてもらいました。子ども達には水筒を

持ってくるように呼びかけました。

④遊びの限定

３密の回避により遊びの制限をしました。同じ空間に居ても安全に一人で遊べる遊びとしてぬり絵、間違い探し、絵本の充実(図書館より１００冊借用)や遊戯室でも直接触れない遊びとして様々な競争、輪投げ、文字探しをして遊びました。外広場も有効活用し、チョーク遊び、シャボン玉等をして楽しみました。部屋を移動の際には手洗いを徹底し、物の共有も避けました。バドミントン・卓球は１対１、ドッジボールは 10 人までという人数を制限し対応しました。マスクをしたまま遊戯室で過ごしていましたが、暑さと運動が激しくなるとマスク着用も危険になるため、距離を保てる「６人まではマスクを外しても良い」というルールを作り、10 分程度遊んだ後はソーシャルディスタンスを保ちながらその場で５分休み、その後マスク着用し、手洗いをして集会室に戻りました。

⑤SDGｓチャレンジ

来館時の手洗い、部屋の移動毎の手洗いを徹底したことにより、ハンドペーパーを設置しました。しかしハンドペーパーの使用頻度が増え、ゴミの量が急増しました。そこでハンカチの持参と水筒の持参を声掛けし、ゴミの量を減らす努力を来館者全員で行えるように夏休み(７月 22 日～８月 31 日)に「SDGｓチャレンジ月間」と称しハンドペーパーの設置を取り止め、ハンカチを忘れた人には、地域の方から寄付でいただいたタオルハンカチ(約 100 枚)を限定で一人１枚プレゼントし、毎回ハンカチを持ってくるように声掛けしました。７月の９日間で(来館者×10 枚/人)で約 4500 枚のハンドペーパーのゴミ削減が出来ました。乳幼児親子はじめ、中高生もこのハンカチを気に入り、現在も児童館で貰ったハンカチを持ってきています。また、「ハンカチを忘れたら取りに帰る」と職員と約束する事でハンカチ持参率が高く、中高生もハンカチを持って来るようになりました。出かける時のエチケットとして身についてきたと思います。その後も「SDGｓチャレンジ」と称しそのままハンカチの持参、水筒の持参の呼びかけを継続しています。

乳幼児事業

（１） 総括

春先は来館が見込めませんでしたが、７月頃から０歳児の来館がぽつぽつと増えてきました。昨年に続き近所の支援センター「マリンキッズ」の職員からの紹介だけでなく、西区の支援センター「ほほえみ」の職員からも支援センターを利用した方に児童館を薦めて下さいました。南区内、西区近隣の施設職員同士の交流が深くなり、情報提供をお互いに出来たことにより利用者のニーズにあわせたイベントも提供できたと思います。

今年度は父親の来館が多く、家族で過ごしたり、児童館で父親同士が子どもを通して交流している姿が見られました。また、イベント時には３密回避の観点から参加人数を限定しましたが、申込者が多く急遽２部制にし、同じイベントを２回転しました。そうする事により希望者が全員申し込みでき、参加できるようになり大変喜ばれました。

兄弟と親一人という来館者が多く、土日勤務や転勤などで、夫婦のどちらか一方に育児の負担が偏る「ワンオペ育児」の家族が昨年度同様に多いように見受けられます。一人では手に負えない、向き合いたくても向き合えない等の状況に職員が他の兄弟と関わったり、見守ったりといった親への支援が出来た乳幼児親子は、昨年に引き続き定期的に来館しています。

今後も引き続き、利用者それぞれの環境にあった関わりが必要だと感じました。

いちごタイム（作って遊ぼう・農園の活動）

毎週火曜日の 10 時 30 分から概ね 20 分程度、乳幼児の定例イベントとして、『いちごタイム』を開催しました。『いちごタイム』は主に入園前の乳幼児親子対象としていますが、夏休みや春休み中は保育園児や幼稚園児の参加もありました。内容は主に手遊び、親子触れ合い遊び、絵本読み聞かせ、季節にちなんだ遊び、リトミック等を提供してきました。参加組数は平均６～15 組で、月齢は０・１歳児が多かったです。最初は慣れずに活動に参加すること自体が難しかった子でも、回を重ねる毎に徐々に他の友達と一緒に参加することができるようになったり、手遊びができるようになったりと、１年を通して成長を感じることができました。

また、第３火曜日には『誕生日会』を取り入れました。『誕生日会』では、大きなケーキパネルの装飾をし、誕生月のお友達を皆で一緒にお祝いしました。

その他、農園の活動ではじゃがいもやさつまいもの苗を植えたり、収穫したりして土と親しむ機会を設け、収穫時にはお土産として持ち帰ってもらったりもしました。また館内に『ほくほくファーム日記』として各作業の様子を展示しました。

① ちびっこ運動会

毎年家族連れでの参加が多い『ちびっこ運動会』は昨年度同様に３密を避けるため、例年の日曜日開催を断念し規模を縮小し、定例の『いちごタイム』に取り入れ行いました。参加年齢は例年では０歳～３歳でしたが、平日開催という事もあり０歳～１歳児が多く、年々未満児から保育園へ入園する方が多いと感じます。かけっこもまだ難しい子どもが多いことから、障害物競争や、野菜取りレース等どれも親子で楽しめる遊び感覚のレースにしました。最後に一人一人にメダルを授与すると、母親からは歓声が上がり、子どもたちは嬉しそうな表情を見せていました。今年は、日曜日から平日開催にしたことにより、家族で参加出来ない方が、家族のために我が子の写真や動画を撮影していました。保育園でも我が子の参観が難しい状態が続いているため、ご家族に様子が分かるような工夫が必要かと感じました。

② 親子リトミック

昨年度、いちごタイムに参加する利用者から「リトミックを定期的にやってほしい」という声があがり、リトミックの資格を持つ職員が１歳児親子を対象に月１回全６回コースで『おやこリトミック』を実施しました。今年度はそのグループから「そのまま継続したい」という声を受け、保育園に通う方も参加できるよう曜日を土曜日に変更し実施しました。土曜日になった事により、兄姉も一緒に参加し、親子で楽しんでいました。また新規参加者も募り別日に１歳児親子用のリトミックも昨年同様に実施しました。リズム活動を中心に工作や季節に合った音楽に触れ合う体験ができ、初めは一緒に行動の出来ない１歳児が回を重ねるごとに保護者と一緒にリズムに合わせて歩いたり、止まったり、手をたたいたりと身体を使って表現が出きるようになっていました。工作も保護者に手伝ってもらいながら紙を破ったり、クレヨンで色を塗ったりと色々な体験をしながら個性的な作品がいくつも出来ました。音楽に合わせて賑やかに動く時間と絵本読み聞かせの静かに聴く時間の区切りが出来てきている子ども達が多く、回を重ねる中で成長を感じ取れました。参加者も両親で参加したり、祖母と参加したりと積極的に参加する姿が見られました。また母親達も毎回同じメンバーなのでコミュニケーションを取り、仲良くなっていく姿も見られました。

今後も利用者からの声を大切に、利用者にあったイベントを行っていきたいと思います。

③　季節イベント

定例の乳幼児イベントの他に季節に合ったイベントも実施しました。春はじゃがいもの苗植え体験、７月七夕会、10 月ハロウィン、12 月クリスマス会、と、それぞれの季節を感じながら、月齢の低い乳幼児でも無理なく参加できるイベントを実施しました。内容のひとつとして、職員が寸劇をして母親達にも見て楽しんでもらえる取り組みも提供しました。近年母親達の中で、我が子を写真に収めたいという方が増えていることや、０歳児はそもそも手遊びやゲームに参加することが難しいことなどの理由から、「写真スポット」を設けました。各イベントで「写真スポット」や「お昼寝アート」などのブースを設けるととても人気で、１人から友達同士、母親と一緒になど様々な写真撮影を楽しんでいました。特にハロウィンでは、仮装グッズ等の販売が少ないように感じられ、仮装を楽しめない親子が多かったように感じました。そこで職員が手作りの仮装衣装を工作に取り入れると、歓声が上がり、とても喜んで写真に納めていました。その後も「他の施設にも参加する際に身に着けていきました」と保護者から喜びの声が聞かれました。２月豆まき会、３月ひなまつり会も今回休館に当たり実施出来ませんでしたが、楽しみに待っていた方が多く、残念がる声が多く聞かれました。今後も、その都度利用者の声を聞きながらイベントの内容を柔軟に変えていきたいと思います。

（２）来期の目標・課題

毎年児童館の認知度が低いと感じていましたが、今年は支援センターからの紹介や、口コミ、HP 等での来館者が多く「児童館に行きたいと思っていました」と子どもの成長に合わせて来館する予定を立てている方がいた事から、認知度が高くなったように感じました。来館した方からの口コミも多く、友達と待ち合わせをし利用していました。知り合い同士の来館者が増えると、一人で来館した親子が他の来館者と関わりにくく、居づらくならないかと職員が苦慮していると、グループの母親達が一人で来た母親に声を掛け、親しくしていました。コロナ禍で頼るものがなく不安で過ごしていた母親が母親同士の会話が弾むと表情が豊かになり帰るころにはさわやかな笑顔になって帰っていく姿が印象的でした。今後も利用された方との関わりを大切にして、また遊びに来たいと思ってもらえるような雰囲気作りを心がけます。また、今年度は移動児童館や園外保育が実現できませんでした。移動児童館として積極的に地域に出向き、児童館を知ってもらう機会を多く作りたいです。まずはそこの周知から始めたいと思います。保育園だけでなく、地域の祭りやコミュニティ協議会主催のベビーマッサージ等にも参加して幅広く PR ができればと思います。

２．小学生事業

（１）総括

昨年同様、今年度の小学生来館者数が伸び悩んでいます。例年来館者カテゴリーの中で一番多い利用者数となりますが、コロナ禍で小学生の遊びが児童館から公園へ変わったように思います。また近隣で感染者が出た話を聞くと自宅で過ごす人が多く「コロナが出たから〇日まで遊びに出ちゃダメって言われた」等の声か聞かれました。そんな中でも今年度は１年生の来館が多かったです。１年生は保護者から「児童館なら安心」「友達の繋がりが学校しかないから児童館で知り合って欲しい」「友達の保護者の連絡先が分からない」等が聞かれ児童館で顔を合わせた保護者が交流し連絡先を交換していました。また新しい玩具を取り入れると友達同士来館し、新しい遊びを楽しんでいました。今年は学校では異学年交流が行われずに過ぎた事から児

童館ならではの異学年交流を心掛けました。子ども達はすぐに打ち解け一度遊ぶと「もっと遊びたい」「またやりたい」と声が上がりました。例年ではグループで遊ぶ子ども達が多く他のグループを拒む傾向にありましたが、高学年の子どもに他の学年の子ども達も一緒に遊んでいいか？と尋ねると「いいに決まってるじゃないですか」「断る理由がありますか？」と快く受け入れる子どもが多く、低学年に優しく、高学年同士パワフルに遊び笑いを引き出してみんなで楽しむ姿にこれぞ児童館！と職員一同感極まりました。子ども達が異学年交流を求め、その中で経験し、成長している事を実感しました。

① わくわくタイム

毎週水曜日の 16 時 30 分から 30 分間、小学生を対象に遊戯室で体を動かす遊びやレクリエーションを行いました。昨年同様に密を避けるため遊びの内容に合わせて定員を設け、定員より参加希望者が多い場合は２部制に分けて遊びました。また外広場でも鬼ごっこ、チョーク遊び、大縄、シャボン玉、フリスビー等遊べる遊具を揃えました。また農園での活動や子ども達の声を聞きクリスマス会等季節のイベントもわくわくタイムに合わせて取り入れました。

② おりがみ Days

昨年度スタートした『おりがみ Days』は運営協議会で評価を頂き、大郷コミュニティ協議会より、移動児童館でやってほしいと依頼を受け、今年度は大鷲小学校の生徒に向けて月に２回、定員 10 名で７か月間実施しました。大鷲小学校の低学年は大郷地域生活センターで運営している学童クラブに所属している子どもが多く、学校帰りにそのまま参加でき、学童クラブに所属していない子どもも自分で来所したり、送迎してもらい参加していました。よく飛ぶ紙飛行機、ラプンツェル、ピカチュウ、リース、ハロウィンボックス、写真立て、鬼滅のキャラクター等、様々な折り紙を提供しましたがどれも人気で予約が埋まっていました。また、児童館でもイベント毎に季節に因んだ折り紙を提供し、職員それぞれが常時折り紙を提供できるようになり、一人で遊べない、遊びが５分持たない子ども達も他の子ども達や職員と一緒に集中して取り組んでいました。参加した子ども達は職員の折り方を真剣に聴く子ども、先走り折り方を間違える子ども等様々でしたが、職員が丁寧に教え、間違った子どもも個性的な作品として認める声掛けをしたことにより、子ども達は自信満々に迎えに来た保護者に完成した折り紙を見せていました。毎回参加する子どもからは手先の上達、一人で集中して遊ぶ、順番を守る等の変化が見られました。

『おりがみ Days』は来年度も引き続き大郷地域生活センターから移動児童館の依頼を受けました。

③ 10 周年記念イベント

２月１日に設立 10 周年を迎えましたが、新潟県のまん延防止等重点処置に伴い休館中でした。記念式典や祭りも検討しましたが、感染対策により断念しました。それでも沢山の来館者に楽しんでもらえる方法として「児童館スタンプラリー」を期間を設けて行う事にしました。スタンプカードにある 10 個のミッションを１日１回クリアし、所々で景品がもらえるお楽しみを加えました。まん延防止等重点処置の期間延長に伴いイベントの期間も延長しましたが、休館期間が明けると「待ってました」と言わんばかりに小学生がスタンプカードを片手に来館しました。景品のひとつにクリアファイルをプレゼントしたことにより、スタンプカードをクリアファイルに入れ持ち歩く参加者が多く、一番に全部クリアすると張り切って毎日来館する小学生、チャレンジで欲しい景品がもらえず、落ち込み一度は止めたが再度始める小学生、全部クリア

しても楽しかったからもっとやりたいと話す小学生、景品よりスタンプを集めたいという小学生、仲間はやらなくても自分はやると言う中学生、メッセージカードを華やかに書きこんでいる母親、職員とジャンケンで勝てない父親等乳幼児から中高生まで幅広く楽しめました。

（２）来期の課題・目標

児童館が開館し10年を迎え、子どもたちの中でも遊びやイベントが定着してきました。特にメーンのイベントでは、普段来ない子どもたちの参加も多く、改めて児童館で行われるイベントを楽しみにしている子どもが多いことを実感しています。ただ、コロナ禍の２年は休館や遊びの制限があり、来館しにくさも出てきたのではないかと感じます。子ども達にとって利用しやすい児童館になるには、改めて定着するように働きかけが必要かと感じます。一方一度来館した子ども達は何度も遊びに来ています。職員との関わりや児童館で遊ぶことが楽しいと感じてくれていると思います。子ども達にとって人との関わりがとても大切な時期であるため、今後も職員の関わりや他学年や学校の異なる児童同士の交流も大切に繋げて行きたいと思います。

３．中学生・高校生事業

（１）総括

中高生の利用時期は暖かい時期が多く、部活動の休みの日や週末にグループ毎で来館していました。春休みには３年生の１クラスが児童館に集合し、ドッジボールを楽しんだり、２年生野球部員が部活の休みの日に卓球、バスケットボールを目的に来館し、待ち時間には課題をしていました。１年生は中学生からバドミントンネットを使用して遊ぶことができることからバドミントンが楽しみで来館していました。また、職員が農園の耕作等の手伝いを頼むと、誰でも快く手伝いをしてくれ頼もしい限りです。また SDGｓの取り組みでもハンカチ、水筒を持参し忘れたら自宅に取りに帰る事を呼びかけた結果、ほとんどの子ども達が持参します。小学生時代からの関わりが子ども達にとって居場所になっているのではないかと感じます。

昨年毎日通い続けていた中学３年生が高校生になり、別々の学校へ進学しても児童館で待ち合わせ来館しました。遊戯室でバドミントンすると言いながらも話が弾みバドミントンをせずに帰る事も多々ありました。高校生になっても地域の同級生との関係性が保て、心のよりどころになっていると感じました。

また一人で来館し、職員室付近で職員と近況や進路について話をしたり、イラスト作成をしたり、職員とバドミントンをしたりと、職員と過ごすことを目的として来館する生徒も数人いました。

イベントでは、普段忙しくて来館自体が難しい中高生の現状を考慮して、日にちを指定するのではなく月間や週間で行いました。期間が長い分、平日から休日までより多くの中高生がイベントに参加することができました。

今後も、中高生にとって居心地のよい『居場所』となるようにイベントや普段の関わりを大切にしていきたいと思います。

（２）来期の課題・目標

中学生・高校生の『居場所』作り

中高生の年代になると、学校の授業や部活動、習い事等でそもそも児童館に足を運ぶこと自体が難しくなります。忙しさに加えて人間関係や進路のことなど悩みが多くなる時期に、児童館が息抜きするための１つの『居場所』になればと考えています。今年度の中学生

３学年はどの学年も小学生の時から来館していた子ども達で、一時来館しなくなっていた子ども達が再度来館し、成長した姿を職員に気付いてもらい、職員と沢山話をして交流している姿をみると、彼らにとって安心できる職員がいる自分の『居場所』の一つとして感じ取ってもらえているのだと思います。また中学生になるとまだ児童館の存在を知らない、知っているけど行ったことない子ども達と一緒に来館し新たな利用者も増えています。

中高生の来館は、小学生時代の関わり、更には乳幼児時代の関わりが反映されると感じました。来館した時には職員が密に関わり、信頼関係を築くと同時に中学校等にポスターを掲示して周知していきたいです。イベントの内容もスポーツ系に加え、職員とのおしゃべりタイムや受験時期の学習応援タイム等を設けてゆっくり話したり、勉強の息抜きをしたりするものを提供できればと思います。日々の忙しさなどからストレスフルな環境で過ごしている中高生の心の拠り所となるように『居場所』作りをしていきたいです。